

効率化ありき・不誠実な会社の姿勢を許さず 安全の確保と公平なサービス提供の実現をめざし 常磐線特急「ときわ」の二人乗務を実現させよう！

7月12日、「常磐線特急の車掌乗務体制見直しに伴う運用改正について」提案を受ける！

常磐線特急の車掌乗務体制について、一人乗務を基本とした乗務体制とするため、運用改正を実施する。

【提案のポイント】

- ・4月9日～4月30日まで検証を行った結果、上野車掌区の担当列車21本のうち18本で一人乗務が可能と判断。残りの3本（下り79M・85M・89M 上野～土浦間）は二人乗務とする。
- ・一人乗務が可能な根拠は、新着席サービスの定着、列車ダイヤ設定と業務量から判断した。
- ・安全性は低下しない。安全は今施策とは直結しない。
- ・検証結果については、支社で集約し支社で判断した。現場とは検証結果の擦り合わせは行っていない。

【提案を受けるにあたっての主張】

- ・労使双方で検証を行ってきたが検証方法含め議論に不十分さがある。しっかり議論し反映させること！
- ・車掌業務のあり方について具体的に議論していくので、支社は責任を持って回答を行うよう要請する！
- ・現場に納得感が無い。安全を基軸に社会にも納得感が得られる施策にしていくこと！
- ・5号車乗務員室でのドア扱いを可能にする設備が整えられるが、使用することを前提とはしない！

提案の前提は「常磐線特急乗務体制の見直しに関する確認メモ」（平成29年9月14日締結）だ！

【確認メモのポイント】

- ・「常磐線特急列車 車掌一人乗務」施策は、平成29年10月ダイヤ改正と切り離し、職場からの検証結果と水戸地本・支社間における議事録確認を踏まえ、二人乗務を基本とする！
- ・常磐線特急列車の車掌二人乗務体制を再確立した上で、会社が車掌の業務実態を検証し、その後労使間協議を行う！

しかし！ 労使の議論で結論を得ることを確認！

一人乗務可能な根拠となる検証結果を具体的に明らかにしない、誠実交渉義務を放棄する東京支社！

- ・提案前に説明がない、議論する場がない！
- ・提案の席上、具体的なデータを求めるが、団体交渉の席上で議論すると回答！
- ・解明交渉において車内調査の結果、データを求めるが、一切示されず！
- ・基本交渉においても同様に、一人乗務を可能とする根拠が示されない！
- ・結論は「会社としての総合的な判断」これでは一方実施と同じだ！

「確認メモ」に反する行為だ！

団体交渉に対する姿勢＝誠実交渉義務に反している
現場の実態・お客さまのニーズ＜効率化

労使や現場との認識を合わせる努力を怠っており、
これでは施策の正当性に自信がないことが明らかである！

公共性の高い鉄道企業のあり方として危機感を抱かざるを得ない！

分会・関係地本とも連携し、正常な乗務体制の実現をあらゆる手段で求めていきます！